

芝商業高校 令和4年度 年間授業計画

教科：(商業)科目：(ビジネス情報) 単位数：2単位 対象：(情報系列)

使用教科書：新訂版 ビジネス情報 (東京法令出版)

使用教材：学習と検定 全商情報処理検定テキスト1級 ビジネス情報部門 (実教出版)

指導内容 【年間授業計画】	ビジネス情報の具体的な指導目標 (自校のスタンダード) 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
4 1. オフィス業務と情報通信ネットワーク (1)業務の情報化 (2)情報通信ネットワークの導入と運用 (3)データの保護	章の目標 — オフィスにおいて多様な働きをするコンピュータについて、その知識を学習させる。 ・現代のオフィスにおける業務内容を理解し、その効率的な進め方としてどのようにICTを活用していくのか、学習させる。 ・ネットワーク社会における新しいビジネス形態の進展やその課題について学び、これに主体的に対応する力を身につけさせる。	・ビジネス社会におけるICT活用について理解できるように指導する。 ・学習内容は情報処理検定にも関連しており、資格取得も目標にできる。	6
5 6 7 2. 表計算ソフトウェアの活用 (1)ビジネス計算 (2)データの集計・分析	章の目標 — 表計算ソフトウェアを活用して、さまざまなビジネスの情報を管理、分析し、用務に役立つ合理化や自動化についての知識、技術を身につけさせる。 ・表計算ソフトを利用して、ビジネス計算・単利複利の計算・年金や積立金等の計算方法を理解させる。 ・ワークシート間の集計やグループ集計、クロス集計などの技法を理解させる。	・科目「情報処理」で学んだソフトウェア、ネットワークの知識を基に、応用・発展させた知識と技術を学ばせる。	20
9 (3)オペレーションズリサーチの基礎	・オペレーションズリサーチの基礎を学習し、シミュレーションや線形計画については、ゴールシーク、ソルバーなどの機能を活用しながら、回帰分析等の技法を交え、与えられた条件下における最適の解を導き出す手法を理解させる。	・各種機能を理解させ、最適解を導くことができる技術を学ばせる。	6
10 (4)手続きの自動化	・マクロの記録機能を用いて、手続きの自動化の考え方と方法を身につけさせる。	・マクロの記述については、スペルミス等細かい点にも留意するよう注意を促す。	8
11 3. データベースソフトウェアの活用 (1)ビジネス情報とデータベース (2)データベースの利用	章の目標 — 身近なテーマをもとに、リレーショナル型データベースを活用して、データベースの検索機能についての知識や技術、データベースを操作するためのSQL言語を習得させる。 ・データベースの特徴や基本的な機能について、身近な例を示して理解させる。 ・ウェブページ上で商品検索が行える題材をもとに、データベースの設計と作成、関数を利用した報告書の作成、手続きの自動化など、データベースの実践的な活用のための知識、技術を習得させる。	・システムの設計、作成、テスト、保守など一連の工程を実習し、システム開発の基礎を実践的に学ぶ。	8
12 (3)SQLの操作	・SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法を習得させる。	・SQLは全商「情報処理検定」や「基本情報技術者試験」などに対応している。	8
1 4. ソフトウェアを活用したシステム開発 (1)システム開発の基礎 (2)アルゴリズムの基礎	章の目標 — ビジネスに関連した情報システムの開発について、基礎的な知識と技術を習得させる。 ・システム開発における代表的な開発モデルと、ユーザインタフェースなどに配慮した開発手法について、基礎的知識を理解させる。 ・処理を自動化する際、処理の流れを整理するためのアルゴリズムについて、基礎的および応用的な手法を習得させる。	・ソフトウェア開発に対して、基礎的な知識と技術を理解させる。 ・アルゴリズムは、汎用性のある処理内容と表記を心がけさせる。	8
2 (3)表計算ソフトウェアによる開発	・表計算ソフトウェアのプログラミング機能を使用し、マクロ機能を用いた開発の基礎を習得させる。マクロの記述によって、「繰り返し」や「判断」などの応用的な処理を自動化するための手法を習得させる。	・マクロの記述については、実習により体験的に作成させプログラミング能力を身につけさせる。	4
3 (4)データベースソフトウェアによる開発	・データベースソフトウェアを利用し、設計書に基づいて実際にシステムを構築する手法を身につけさせる。	・実習に向けて、データベースの知識を理解しておくことが必要である。	2